

## 第4回・馬町爆撃を語り継ぐ会開催のご案内

今年も余日を残すのみとなりました。皆様にはご機嫌よくお過ごしのことと存じます。本年一月十六日、第一回「馬町爆撃を語り継ぐ会」開催、二日目以後は「語り継ぐ会」と改称し、皆様のご熱心なお力添えで、第三回目で開催できました。誠に有難うございました。

さて、その三回目で、十一月頃に「第4回の開催」とお話いたしましたのが、会場に使用させて頂いていた元東山小学校が、来年度から京都市立白河総合養護学校分校となる工事の関係で、同封別紙の日に変更することになりました。ご了承いただきたく存じます。

その四回目は、本年同様、六八年前、爆弾が落とされた日に被爆した地、旧修道小学校で、爆撃でお亡くなりなされた被爆者の方々への慰霊のお気持ちを重ねて開催いたしたいと存じます。

あの爆撃は、京都市で最初と言うだけでなく、三月十日の東京大空襲、同十五日の大阪大空襲より二ヶ月ほど前に有りました。

沖縄も無傷、広島、長崎も昔のままの日でした。当日の京都の風向き風速次第では、僅かしか離れていない、今や世界遺産の清水寺、モット近い妙法院、智積院、博物館が爆弾で破壊されたかもしれません。

戦時中は、軍の緘口令。戦後は、アメリカの「京都の歴史的価値で、目標から除外」の情報が流され爆撃は隠され、日本中がその情報を鵜呑みにしてしまいました。その意味で馬町爆撃の被害は他と比べて極小さいものですが、大きな教訓を含んでいると思います。

歴史に「もし」はないと言われていますが、「もし」を伝えるか、伝えないかで大きな差が出ることを、東日本大震災は教えてくれました。

馬町爆撃を「もし」として、子々孫々に伝え継ぐことが極めて大切だと思います。

そのために私達は、被爆された方々の慰霊と、爆撃の事実を「語り継ぐ」ために、本年と同様、その日、その場所で「集まり」を開催いたします。厳寒の時期ですが、是非、多くの方々にお声かけを賜り、共にご参加を戴きますようお願い申し上げます。

平成二十四年十二月二十五日

馬町爆撃を語り継ぐ会

会長 濱田健二